

インスリン指導関係資料の効果

専門分野のナースの会：○吉崎綾、河野万有美、久村郁子、福田ひろみ
荒巻陽子、川本直子、河野真由美、田中多喜子
梅崎淳子

I はじめに

近年糖尿病患者が増加しており、福岡赤十字病院(以後当院と称す)において、糖尿病専門病棟以外でのインスリン導入が増えつつある。H14年に専門分野のナースの会(以後当会と称す)の研修会後のアンケートで、“インスリンやインスリン導入の指導に戸惑いがある”という看護師の意見が多くあった。そこで統一した指導ができるよう、また知識が薄れた患者にも活用できるようにと、当会でインスリン導入時に使用できるインスリン指導関係資料を作成した。インスリン指導関係資料を配布後のアンケート結果を分析し、その効果を報告する。

II 研究方法

- 1.対象：各病棟、外来、訪問看護ステーションの看護師約 300 人
- 2.期間：H18.3月～9月
- 3.方法：調査研究

糖尿病療養指導看護師が各部署へ出向き説明を行った。ただし、糖尿病病棟経験看護師がいる部署に関しては、そのスタッフへ依頼した。そして説明直後と3ヵ月後にアンケートを実施。

考察は、成人学習者への教育援助過程としての7段階のステップを用いる。

III 結果

1.説明方法について

説明は、説明者の間で説明内容のポイントをあげ、統一して説明できるよう計画した。

糖尿病病棟経験スタッフへ依頼した分に関しては、説明未実施・アンケート未実施・未回収に終わった部署もあった。

説明が「わかりやすかった」という反応が多く、理由には、「実物を用いてのデモンストレーションがあったため」、「疑問点を質問するとその都度答えてもらった為理解ができた」などがあり、一方わかりにくかった理由として、「説明が早くてついていけなかった」、「もっと長い時間をかけることができたら理解できた」、「具体的に説明してほしい」という意見があった。実際に説明は、各部署のカンファレンスの時間を用いて 20~30 分でしたため、時間がなかったという現状もあった。また説明は、各部署 1 回しか行ってない為、勤務外などで説明を聞いてないスタッフがいることが明らかになった。

その他説明後の指導に対する気持ちの変化がみられ、理由として「自信がついた」という意見が多かった。その他に「曖昧な部分が整理できた」、「不安が減った」、「日々の業務ですぐ活用できそう」、「以前はできないと思っていたが、パンフレットを用いれば指導できるのではないかと思った」という意見があった。逆に変化がなかった理由としては、「指導場面にあたらなないのでイメージがつかない」、「指導という意識がなかった」というものであった。さらに、指導についての興味にも変化があり、興味をもてた理由のひとつとして、「DM患者が多く、中にはコントロール不良の人もいる分しっかりと知識を持って指導していきたいと思った。」という意見があった。

2.インスリン指導関係資料の内容について

資料の内容としては、「理解できた」という反応が多く、その理由として「絵、写真付きで見やすかった」、「項目ごとに整理されており指導しやすい」、「低血糖に関してきちんと文章化されたものがあり、きちんと理解し対処できる」という意見

があった。また「患者からもわかりやすいという反応があった」と患者側からも反応を得ることができた。

一方で、「症例問題を増やして欲しい」、「故障時の対応について」、「小児など、成人一般以外の患者指導について」、「SMBGについて」の資料の追加要望もあった。

3.利用状況について

資料配布後の利用状況については、未使用が圧倒的に多かった。理由としては「機会がない(対象者がいない)」がほとんどであったが、中には「忘れていた」、「意識が薄かった」という意見もあった。

逆に使用した場合には、指導内容に変化がみられ、「ポイントが絞れた」、「患者よりわかりやすいという反応があった」、「自身のわからない部分が解決できた」、「自信がもてた」という意見があり、少数ではあるが資料導入の効果も得られている。

IV 考察

1.説明方法について

資料を配布した上で実際各部署へ出向いて説明し、その場で質問に対応できたことは効果的であり各スタッフが理解しやすかった理由のひとつではないかと考える。これは段階1の「雰囲気づくり」に当てはまると考える。“成人の学習者への教育では、まず第一段階の「学習的雰囲気」をいかにつくるかが大きなポイントである”といわれている。しかし結果にもあるように、時間が短時間であったこと、全スタッフへできなかったことは、資料配布時期が3月であり、時期の検討が必要であったろう。また説明した部署によって特殊性が様々あり、それぞれのニーズに合わせた説明がされていないと思われ、あらかじめそれぞれの部署の特殊性やニーズを把握する必要があったと考える。そのために各病棟・部署とあらかじめ説明時間・内容などを話し合う必要があった。また結果の意見にもあるように、各担当者によって説明に差があり、説明に差が出ないように

事前に打ち合わせやロールプレイをする必要があったと考える。そうすることで学習者であるスタッフが指導者と対等の役割を果たすことができたであろう。これは段階2の「相互的計画化」の不十分さを表していると考えられる。

2.インスリン指導関係資料の内容について

結果にもあるように看護師・患者ともに好反応であり、インスリン導入指導に関しての内容としては問題なかったと考える。それは事前のアンケートを元にした内容であり、3段階の「学習ニーズの診断」に即していると考えられる。しかし、インスリン薬剤や器材も変わっていく為、随時内容の見直しが必要であると考えられる。

3.利用状況について

説明後のアンケートの結果より、指導に対する興味を持てたという人が多く、説明会を開いたことで潜在的な学習ニーズへの働きかけができた。また対象者がいれば使用できていることから、今後もスタッフの意識が高められ継続できるように、各部署のニーズの把握と介入を具体的に計画・実施していく必要があると考える。使用頻度によっては、資料の存在が薄れていくことが考えられる。スタッフへ認識してもらうために、最新情報やインスリン治療の基本などの資料を、随時更新していく必要がある。現段階では、成人教育学のモデルの4～7段階である、学習者の目標の明確化・実施・評価の把握ができていない状況である。前述したように、「学習的雰囲気」を作ることは学習者の動機づけを高めるためにも重要であり、学習者の把握を行うためにも、各部署と連携できるシステム作りの検討が今後の課題となる。

V 結論

- ① 専門部署以外でもインスリン導入患者への指導の機会がある。
- ② 「インスリン指導関係資料」は、インスリン導入指導に使用する資料としては適していた。
- ③ それぞれの部署の特殊性やニーズを把握し、それに合わせた説明を行うことで、スタッフへの指導の興味がより持てる。
- ④ 糖尿病療養指導士(CDE)として部署との連携を図り、意識を高める必要がある。

<資料 1>

直後のアンケート結果：回収数 139 枚

質問	はい	いいえ	どちらもない	未回答
パンフレットの内容は理解できたか	126	2	11	0
パンフレットを指導に活用できそうか	123	3	13	0
説明はわかり易かったか	110	3	13	13
説明を聞いて指導に対する気持ちの変化があったか	74	18	34	13
糖尿病患者の指導に興味をもてたか	92	3	38	6

おわりに

私たちの今後の活動として、糖尿病の最新情報を提供し、CDEとして各部署との連携を図り支援していく。また、スタッフのニーズを把握し介入することで、教育者としての学習を重ね活動を広げていきたい。

3ヵ月後のアンケート結果：回収数 186 枚

質問	はい	いいえ	どちらもない	未回答
パンフレットは使用したか	40	146	0	0
指導内容に変化があったか	15	5	7	13
もう一度説明会を希望するか	79	100	0	7